

交換留学体験談

加藤 翔子さん

日本女子大学文学部英文学科/
英国 ブリストル大学



現在、トフルゼミナール留学センターでカウンセラー1年生の加藤翔子さん。
イギリス人、他のヨーロッパ諸国やアジアなど様々な異なった文化的背景を持つ友人との出会いや交流によって視野が格段に広がったと語る、そんな彼女に受験体験談をうかがった。

■交換留学選考で苦労した点はどんな点ですか？

主に2点あります。最も力を注いだのはやはり TOEFL のスコア取得です。海外経験が無かったこともあり、主に Listening/Speaking の強化に大変苦戦しました。

2点目は情報収集です。大学に関する情報が溢れる中、自分に合った大学を選ぶのは想像以上に労力を要する作業でした。少しでも留学に興味を持った段階での早めの対策が鍵になると思います。

■交換留学決定後、実際の留学まで準備すべきことは何ですか？

一番に挙げられることは英語力の向上・維持です。留学先ではディスカッション力に加え日々大量の文献を読むことが課せられ、短期間でエッセイを作成、提出することが求められる為、単位取得には総合的な英語力を鍛えておくことの重要性を痛感しました。

同時に日本の文化を発信できるようにしておくことも大事かもしれません。他国の人の多くは日本に強い関心を持ち、時には歴史認識や政治について質問をされることも少なくありませんでした。正誤に関わらず自分なりの考えを持ち、それを伝えることで相手との距離が縮むことが多かったので、日本にいるうちから意識しておくのと良いと思います。

■実際に留学をして一番印象に残っている点はなんですか？

私が英国留学で特に印象的だったのは、現地学生の学問に対するモチベーションの高さです。中でも講義とは別に行われるディスカッションでは、全ての学生が授業前にリサーチをこなし、積極的に討論に参加していました。提出物や予習に追われる日々でしたが、友人と助け合いながら授業についていける環境がそこにはあったように感じます。更に、平日は皆勉強に集中するため図書館に籠り、休日遊ぶときは遊ぶというように、メリハリをつけた生活を送っていたことは私にとっても良い刺激となりました。

トフルゼミナール留学センター

■留学中に困った点はなんですか？

1年間イギリス人フラットメイト7人と共同で寮生活を送りましたが、最初の3か月程は日本とは異なるコミュニケーションの取り方に困惑する日々が続きました。例えば、イギリスでは各自、部屋のドアを開けておくことが普通です。日本では見ない習慣になかなか慣れず抵抗がありましたが、次第に開放していた方がコミュニケーションを取りやすいと感じるようになりましました。

また、電圧の違いによると思われるのですが、日本から持参したノートパソコンが故障するケースが私も含め周囲で大変多かったため、こまめにバックアップをとり、変圧器を持ち込む等しておく方が良いと思います。

■留学を経て学んだ点、よかった点を教えてください。

イギリス人、他のヨーロッパ諸国やアジアなど様々な異なった文化的背景を持つ友人との出会いや交流によって視野が格段に広がったと同時に、海外から日本を客観的に見ることで、初めて日本人としての自分を意識するようになりました。留学を終えた今、改めて日本のことを知る必要があると感じています。



受験生へのメッセージ

留学は、未知の環境で悩み、そして学ぶことのできる貴重な機会です。



海外で生活をするということは苦勞を伴うことでもあります。毎日必死に何かに取り組まなければならない状態になることも少なくありませんし、たった独り友人や家族と離れ異国の地でそれらをこなすということは容易ではありません。しかし、そういう状況に置かれて初めて見えてくるものや、肌で感じる経験、帰国後も切磋琢磨できる友人の存在は何物にも変え難く、そしてそれは大学生という時期にしか得られないものです。

今、留学を目指している人にはぜひこの機会を掴んで欲しいと願っています。